



朝



伊
899

後
抄



朝敵辨

如


門
歸 895
卷

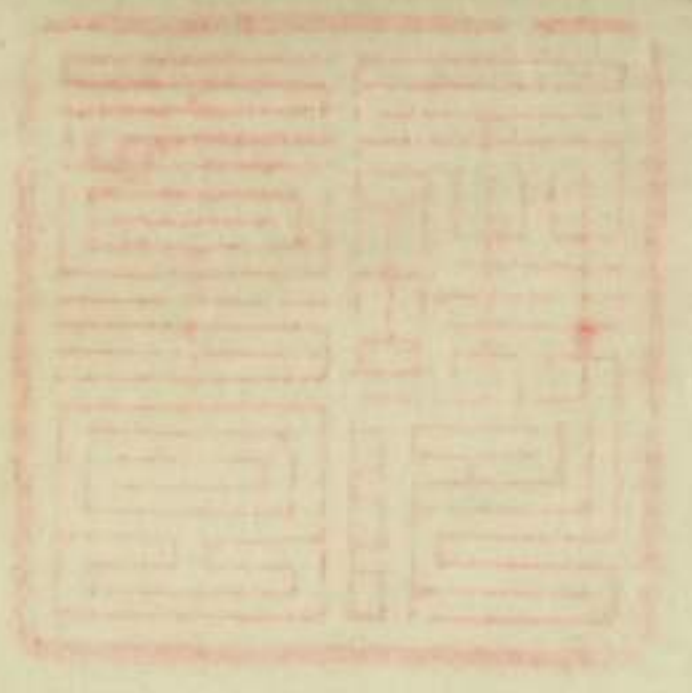


文似古亭筆記

朝敵辨

清水廣片并





或問曰近來契冲莫淵ノ輩萬葉風ノ古体ノ歌ヲ
 我モ好ミ人ニモ教ヘシヨリ古風ノ歌學海内ニ
 流行スル様ニナリタルヲ堂上家ノ歌風ヲ學ヒ
 来リシ輩是ヲ惡シ朝敵也ナト云モノモ有ヨシ
 承リ及ビ候コレハイカ、心得テヨロシカルベ
 夕候ヤ

答曰此不審也ニ候今委シク辨シ申ヘシ先何カ
 サシオキテ古學者ヲ朝敵也トイフハ甚シキ心
 得タカヒ也其ヨシイカニトナレハマツ譬ヲト
 リテイハシニタトヘハ漢學ノ道モ昔ヨリ朝廷

確言可辨

ニテハ菅家江家ノ二家明經文章ノ家ニテ今ニ
 其學ヲ傳ヘ来ヌレト盡ク古註ヲノミ用ヒテ新
 註ヲ用フル事ナシ然ルヲ將軍家ニテ林道春ヲ
 御掌用有シヨリ藤暉程高林道春ノ學風オコナハ
 レテ皆新註ヲ用フル事ニナリ後々ハ性理ノ學
 シキリニハヤリテ甚シキハ四書五經小學近思
 錄ノ外ハヨムベカラズナドイフ先生夕十モ出
 来ル様ニナレリ此學風ハ朝廷ノ學風ト大キニ
 相違セレバコレヲコソ學問ノ上ニテハ朝敵ト
 モイフヘキヲスベテ學問ノ道ハ和漢トモニ左

様ナルカタクナナルモノニハアラスイトモ公
平ナルモノニテ人々ノ心々ニヨルモノナレハ
古註ニモアレ新註ニモアレヨク心ニ考へ得テ
ヨロシキ方ト思フニ随フベキ事也サレハ將軍
家ニテ新註御用ヒナレトモ朝廷ヨリ新註用フ
ヘカラストノ御答ノモナシ又此ニ百年來伊藤
仁齋荻生徂來ノ二傑有テ復古ノ学ヲ唱ヘ海内
是カ為ニ一新シテ新註ヲ捨テ古註ヲ用フル輩
多クナリコレヨリ学問ノ道日日ニ開ケテ仁齋
徂來ノ謬ヲ糾ス人モ又彼是ト多ク出来リ今ニ

ナリテハ必新註ニノミヨリテ古註ハ見ルヘカ
ラス又古註ヲノミ取レ新註ヲバ目ニモ觸ナト
イフヤウナルカクシテ頌シキ学者モマレニナリ行シハ
實ニ昇平文明ノ化ニテ学問ノ道ノ盛ニ開ケシ
カ故也又筆道ノカタニテ譬イハバ今公邊ニテ
御用ヒノ和様御家流ナトハ士農工商ノ上ニ有
用ノ事ニテイトメテタキ事ナルベケレ凡同シ
和様トイフ内ニモ古代ノ三跡ハ云ニオヨハ又
道風行成佐理ナト尊圓親王アタリニテイツレ
モ筆法正クウルハシサモスクレテ見ユルヲ世

世ニ書クツシ来テイタク書体ヲ失シ卑俗ニモ
ナリニタリ然ルヲ寛保享保ノ頃細井廣澤有テ
道栄雪山ノ筆意ヲウケ明人文徵明ヲ慕ヒテ世
ニ云フ唐様トイフ事ヲハヤラセ門人ニモ関思
恭三井親和平林淳信ガタクヒノ人出来テ一時
世ニ用ヒラレシヨリ迩来伊勢ノ韓天壽江門ノ
澤田東江又アラタニ古法帖ノ筆学ヲトナヘ出
テ今モ心アル人々ハ皆古法帖ニヨリテ已レカ
好ミ慕フ所ノ古人ヲ師トシテ其風ヲ学ブコト
トハナリニタリサレ氏公儀ヨリ御家流ノ外ナ

ル古法帖ノ筆学ヲスル者ヲ朝敵也トノ御咎メ
モナシ歌道モ又然リ中古以来古言ノ学タエテ
古歌ノ意ヲ知ル人ナシタマク歌ヨム人ハアリ
シカ氏師傳ノ説ヲノミ守リテ女シク難義ナル
コトアレハ或ハ口訣也或ハ神秘也ナト云テ古書
ヲ正サントノ心モナクテ数百年ヲ送り来リシ
ヲ元録ノ始ノ難波ニ下河邊長流岡珠庵契冲ノ
二人出テ萬葉集ヲヨミトキ千歳ノ疑問ヲ開キ
シヨリ荷田東麻呂賀茂真淵ヲ續キテ大キニ後
古ノ学ヲ唱ヘ述クハ真淵ノ門人伊勢ノ人本居

舊説ノ誤ヲ糾サントテ
云過シタル事モ一ハク
ハナキニアラス強テ学行
業ノ大成ヲ思ヒテ卒強
ノ説モ即ハ是カ如ク
氏ニニ字者ノ上ニ

宣長カ如キ出藍ノ譽高ク今ハ古言ノ学朝月ノ
サシ登ル如ク明ラカニ成ニタル氏猶オホツカ
ナキ事多クシテ契沖真淵宣長ノ説モ有是ハ和
漢トモニ学者ノ上ニハ常ノ事ニシテ十ガ十ナ
ガラ全クハナキ事也サレバ其ヨキヲ取悪キヲ
捨テコソ学問ハ為ヘキ事ナルヲ吾佛尊シトカ
云諺ノ如クオロカナル人ノ心ヨリシテハオノ
レノ師ト夕ノミ又尊信スル人ノ云置シ言ト夕
ニノヘハ十ガ十百ガ百ナカラ皆謬リハ無事ト
ノミ思ヘリカ、ル輩ナトガ契沖真淵宣長等ガ

説ノウチニテマサシク考ヘ足スシテ誤リ心得
タル事モアルヲ強テ其誤ヲオホヒ隠サントテ
カヘリテ外人ニソシラル、事ナリ縦令イカナ
ル鴻儒碩学ニテモ百カ百誤ナキ事アラニヤ其
所ハ後学ノ取捨ニ心有ヘキ事也スベテ学問ノ
道々カ、ル太平ノ御世ニ逢テ人々其スチスチ
ニ心ヲヨセ志ヲ励スカラハイカニモ考慮ノ行
ト、クタクハ古今ノ差別ナク善ニヨリ惡ヲ捨
ヘキ事也是ヲコソ公平ノ学術トハイフベケレ
然ルヲ歌ノミ古人ヲ師トシ古歌ヲ手本トシ證

アルヲ用ヒ無誓ノ説ヲ退ルヲ無用ノ事ナリト
イヒ朝敵也トイフ事ノ有ベキヤヨシソレトテ
モ朝廷ヨリ將軍家へ御達シアリテ歌ハカヤウ
ニコソヨムベケレ左様ニハヨムマシキモノ也
ト云御觸ノアラハコソ哥ハ人ノコ、口ヲ種ト
シテ萬ノ言ノ葉ヲイヒ出ルモノ也イカテサル
御法^度アルヘキヤウアラシ
又問云然ラハ當時堂上方ニテモ古言ノ学ヲ用
ヒラレ候事モ有事ニ候哉関東ニテモ万葉風ヲ
好ミ結フ事候哉承タク候

答曰當時ハ心アル堂上タチハ表ニ古学ヲ唱へ
サルモ心ノ中ニハ深ク信シテ古書ヲ好ミヨマ
ル、輩多シ是ハ近來妙法院宮^{今上皇帝御兄宮}深ク古学ヲ
好ミ結ヒ御詠出ノ歌モ皆古假字ヲ用ヒ結ヒ京
都ニテハ蘆菴高蹊李鷹ガタクヒヲ召寄テ歌学
ヒセサセ結ヒ関東^{行字}ニニハ千蕨春海自寛ナトガ
歌ヲ召上セテ深ク賞ミ慕ヒ結へリ過シ享和年
中大佛再建ノ御願ニツキテ御下向有シヲリモ
御旅宿^{天徳寺}ニシテ千蕨春海ヲ召テ古学ノ事共
問ハセ結へリ

此時御問答御談話ホラハ後ニ春海安シク
筆記ニテ併書記ト名ツケテ一冊トナシオケリ
カク至尊

此は物いふ所なり
まのまなり

僅き梅世伍以約
不請為海紅花
見七陰影稿サ一

此は物いふ所なり
一物ナルヲ一物トシテ
(廣見) 多し
或ハ内ニ此花セリ此
常留候ニ請テ三三
ラ積タリ此花行
ハ即テ此花ニ
モノナリ此花ニ
ニ多し此花ニ
たノ如シ 日梅記

寛政十三年庚申八月高小治三品より
宛つる上候や内返紙

あしひの
あしひの
あしひの
あしひの

御身ニ好マサ結フヨリ公卿ニモ富小路殿貞直
ナトハヒ夕スラノ古学者ニオハス也千蔭ヲ
慕ヒ玉ヒテ萬葉路解ラマ井ラセシヲリノソノ
返簡ニ自筆ニテ仰セオコサレシハ
未接芝眉傾葵無已鴻便附寄候秋冷之節起居清
勝候哉令承知度候抑萬葉集畧解之大作渴望之
趣李鷹申達有之候哉不料預慮授領頭枕感枕之至
候當聖之忘日々鮮年来之疑滞彼幸不過之速可
申謝候旭海紅花不能其美避久之罪可令高怨結
此一幅聊賀與珠玉競光之德榮候趣意ニ而伴函

候如於笑苗者可為素懷候尚書錄可在後信草々
馳秀筆候也
八月十三日
貞直

千蔭翁
陸奥下

追自不審之事如岳山候間追々可及質問無隔
心垂示之義祈望候

古々魯迺半天目南記曾等八官馬
無佐四能々川吉
玉專一候也

此ハ幼ハ内而中
ヲモのまより

僅者揚世伍以約
不請為海紅花
見七院製稿サ一

ノ御身ニ好マサ結フヨリ公卿ニモ富小路殿貞直
十トハヒ夕スラノ古学者ニオハス也千蔭ヲ
慕ヒ玉ヒテ萬葉路解ラマ井ラセシヲリノソノ
返簡ニ自筆ニテ仰セオコサレシハ
未接芝眉傾葵無已鴻便附寄候秋冷之節起居清
勝候哉令承知度候抑萬葉集畧解之大作渴望之
趣李鷹申達有之候哉不料預意授領頭枕感枕之至
候螢雪之窓日々鮮年来之疑滯攸幸不過之速可
申謝候旭海紅花不能其美避久之罪可令高怨結
此一幅聊賀與珠玉競光之德榮候趣意ニ而伴函

候如於笑苗者可為素懷候尚書錄可在後信草々
馳秀筆候也
八月十三日
貞直

千蔭翁
陸業下

追白不審之事如岳山候間追々可及質問無隔
心垂示之義祈望候
閑夏安布憑古々魯迦半天目南記曾等八官馬
難座民依年無佐左四能々川吉
萬々為道自玉專存一候也

去三此事ハ平田氏古道
大意ニ載タリ

北中山殿宣長
講座團

宣長 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服	宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服	宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服	宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服	宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服 宣長朝服
--	--	--	--	--

又享和元年五月本居宣長上京也三二彼法院宮
ヨリ七歌トモ多ク乞ハセ結ヒ中山大納言^{志平卿}講也三其

三條大納言公修卿^{ヲナ}
花山院右大将愛德卿^エ
河躰宰相實祐卿
今城中將定成朝臣
野宮侍從定靜朝臣^{キヨ}
花園美作權助公燕主

右ノカタガク公卿ハイツレモ烏帽子袴衣殿上
人ハ上下着也右ノ外地下聴衆家々ノ諸大夫侍
等ナラヒニ宣長カ門人共皆々次ノ間ニ列座シ
テ聴聞セリ宣長上京ノ中四條ノ猿宅ニシテ昼
ハ毎日源氏物語夜ハ毎夜萬葉集ヲヨミケルニ
其講釈ヲ富小路新三位殿^{貞直卿} 錦小路三位殿^{頼理}
卿 日野中宮権大進^{資受卿。從二位} 仔ノ方々一夜モカ
、サスオハシ其外ニモ外山三位殿^{光實卿} 倉橋中
務權少輔殿^{春行朝臣} ナトマレマレ問結フヲリ有又
別二綾小路中納言殿^{俊資卿} 富小路新三位殿錦小

又享和元年五月本居宣長上京也。三二法法院宮
ヨリモ歌トモ多ク乞ハセ給ヒ中山大納言^{志平卿}
ノ許ニ召レテハ延喜式卷八祝詞式ヲ講セシ其
ヲリノ聴衆
中山大納言忠平卿
三條大納言公修^{ヲナ}卿
園大納言基理卿
花山院右大将愛德^エ卿
大炊御門中納言経久卿
河内宰相實祐卿
中山宰相中將忠頼卿
今城右中将定成朝臣
野宮左大将定業朝臣
野宮侍從定静^{キヨ}朝臣
東園侍從基仲朝臣
花園美作權助公燕主

右ノカタガタ公卿ハイツレモ烏帽子袴衣殿上
人ハ上下着也。右ノ外地下聴衆家々ノ諸大夫侍
等ナラビニ宣長カ門人共皆々次ノ間ニ列座シ
テ聴聞セリ。宣長上京ノ中四條ノ旅宅ニシテ昼
ハ毎日源氏物語夜ハ毎夜萬葉集ヲヨミケルニ
其講釈ヲ富小路新三位殿^{貞直卿} 錦小路三位殿^{頼理}
卿 日野中宮權大進<sup>資受卿。從二位
資枝卿孫</sup> 侍ノ方々一夜モカ
、サスオハシ其外ニモ外山三位殿^{光重卿} 倉橋中
務權少輔殿^{春行朝臣} ナトマレマレ問給フヲリ有又
別二綾小路中納言殿^{俊資卿} 富小路新三位殿錦小

路三位殿日野中宮権大進殿此方々ノ好ニヨ
リテ大被詞ナラヒニ出雲國造神賀詞ヲ直長講
談セリ直長伊勢へ帰ルヲリ富小路殿長歌ヲヨ
ミテオクヲラレ余ノ公卿々チモ皆歌ヲ作テオク
ラレケリ此時事ハ日記書誌ト
イフモノニ委シ又真淵ノ門人伊勢外官社
人荒木田久老神主ノ著セル萬葉集觀落葉ニハ
芝山中納言殿持叢卿序文ヲカ、セラレテ末ニ
今ヨリハ時雨降ニシ奈良ノ葉ノ陰フム人ノ道
ハマドハジトシルサレタリ此外近來古学ノ書
ニ堂上方ノ序多シカ、レハ古学者モシ朝敵ナ

ラニニハイカテカ、ル事トモアラレヨクヨク
ワキマフヘシサテ又漢東ニテ古学御用ヒナサ
レシ始メハ水戸黄門君光國卿ヨロツノ学門ニ夕
ケ結フアマリ圓珠庵契冲カ萬葉集ニ委シキ由
キコシメシテ御家臣安藤為章ヲ御使ニテ一度
ハ下向シテマノアタリ萬葉集ノ難義ヲ説聞ス
ベキ由仰遣サレタレ共契冲年老テ遠方ノ勞ニ
タヘスシカノミナラス名利ノ望ナキ大徳ナル
故ニ仰コトハカシコケレ氏下向ノ事ハ思ヒ絶
タル由イナミ奉リシカバ為章空シク歸リテ此

ニ候へ此匹夫ヲモ志ハ奪フベカラストコソ
聖賢モノ結ヒタレ學問ノ道ニハイカニモ我志
ヲマケテ人ニ從フ事アルヘシ此存シ候ハズト
申テ遂ニ病ト称シ仕ヲ辭シテ慶土トナリ居夕
リシニカタクシケナクモ時ノ將軍家有德院殿在満カ
皇朝ノ吏学法ノ学ニ長シタル事ヲ聞召テ小堀土
佐守ヲ以テ延喜式等其外皇朝ノ古典ニオイト
不審ノ事トモ問セサセ結ヒシニ委ク答ヘ奉夕
リシカハ大キニ御感心有キ然ルニ元文三年京
都ニ大嘗會アリシカハ御内命ヲ蒙テ上京ニ委

シク其大禮ノ式ヲ記得シテ帰リスナハナ大嘗
會具叙九卷ヲ撰シテオホヤケニ奉リ翌年其具
叙ノ趣意ヲ略記シテ大嘗會便蒙ト名ツケテ上
木シクキ真洲ハ田安君ノ御心ニ叶ヒテ御用ヒ
厚ク君モ歌體約言トイフ書ヲアヲハシ結ヒテ
萬葉ノ古風ヲヒタスヲニ尊信ニ結ヒ後世ノ哥
ヨミ等ノ誤リ心得タル事トモヲタ、シノ結ヘリ
平生御詠出ノ歌イト古依ナリ御集傳ト名付テ一冊有又殊ニ
裝束深色ノフニ委シクオハシマシテ御自ワノ御著述トホホシ
ハ當時紀伊黃門君ハ本居宣長カ学ヲ深ク御尊
信有テ和歌山ヘ宣長ヲ度々御召有テ古事記書

紀萬葉其外ノ古俗ヲ講談サセテキコシノ三月
俸ヲ賜ハレリ宣長没シテ後其子春庭モ古学ニ
委シケレト盲人ニテアレハ宣長門人稻懸大平
トイフヲ仰言ニテ宣長カ養子トナサシメ本居
三四右衛門大平ト改メサセテ當時ハ伊勢松坂
ヨリ紀伊和歌山ヘ引移ラセテ全クハ御家臣ト
ナサセラレタリサレハ今ハカクハ如ク京都ニ
モ関東ニモ年ヲ追ヒ月ニソヘテ御用ヒアル古
学ナルヲ朝敵也ト云ハ甚シキ僻心得上云ベシ

其外ノ古俗ヲ講談サセテキコシノ三月

